

# 仙 台 教 区 報

発行所 カトリック仙台司教区事務所  
 980 仙台市本町一丁目 2 番 12 号  
 電話 〇二二二一 22 一七三七七 一番  
 編集・発行人 首藤 正義

## 若者の主体的な動きに期待する

### 教皇メッセージにどのように応えるか？

教皇ヨハネ・パウロ二世は、一九八五年「世界平和の日」のメッセージとして、「平和と青年はともに前進する」を発表した。このメッセージは国連の国際青年年（IYY）に合わせ、若者への訴えが中心であった。

仙台教区においては、一九八五年の年頭司教書簡で佐藤千敬司教は、「キリストの平和の使者になろう」を向こう三年間の司牧目標とした。そしてこの一年を特に、「青少年の健全育成を目指す年」とし、教皇メッセージ「平和と青年はともに前進する」を土台、出発点として教区内各地で活発な活動が展開されるようにと訴えた。

### 教皇メッセージを教区民の手に

司教の呼びかけに教区民がただちに應えるためには、土台、出発点である教皇メッセージが皆の手に渡っていないなければならない。それが手元のない今、出来るだけ早く皆の手に渡るよう教区本部の対応が望まれる。教皇メッセージが司教年頭書簡と共に各小教区、各会

においてとりあげられ、一年間を通じての具体的な活動の指針となることが期待される。

### メッセージの対象

教皇メッセージはキリスト者、非キリスト者を問わず、平和に関わるすべての人、善意あるすべての人に対して送られた。特に平和が緊急課題だと思ふ人、平和を推進したいと思ふ人、平和への直接の責任をになつていて政治指導者、平和の建設にいそむ文化の担い手、平和と正義を求めて苦しんでいる人、そしてなによりも世界中の若者にこのメッセージが送られている。なぜなら、今日と明日の平和は、若者が自分の人生と社会における自分の使命をどう決めるかにかかっているからである。

### 平和の未来は若者にかかっている

メッセージは 12 の項目から成り、日々私たちが直面している世界の問題と希望から書き始められている。破壊的な暴力と戦争の脅威

にみちた困難な時代にあつて意見の相違等による対立がある。その対立の究極的な原因を見極め、それを根絶やしにする必要がある。現在の危機は心を変え意識を新たにする機会になりうるので、危険と憂慮の時というより現代は希望の時である。

人類は現代の困難によつて試されている。この困難の中にあつて、平和への努力の中で若者には果たすべき役割がある。平和の未来、すなわち人類の未来は新しい世代の男女のくだす倫理的選択にまかされていることに若者は気づかなければならない。そのため若者は自分たちの心にある幸福・真実・美・終わりのない愛への渴望をおそれてはいけない。そして人間を深く信じる人にならなければならぬ。そのために、「人間とは何か」「あなたの神はだれか」を自問自答しなければならぬ。上記の二つの問いにどう答えるかによつてこれからの人生と平和の方向が決まる。

### 司教日程 (1月18日現在)

- 2月1日 中央協・財務委員会(東京)
- 4日 教区司祭団役員会(仙台)
- 7日 常任司教委員会、カリタス・ジャパン(東京)
- 8日 社会司教委員会(東京)
- 9~11日 ボランティア連絡協議会総会(大阪)
- 14日 カリタス・ジャパン(東京)
- 21日 カリタス・ジャパン(東京)
- 23日 森司教叙階式(東京)
- 28日~3月8日 ローマ



後藤寿庵記念ホール

成るか?!



遺跡の町水沢では、近年、横町一番街再開発事業が進められてきていた。それに伴い、いよいよ3月をメドに、35年の歴史を持つ水沢教会(ヨハネ・ローネル主任神父)も移転されることになっている。ところでうれしいことに、この機会に信者の間から、「我々の偉大な先人、後藤寿庵の記念ホールの教会内設置を」という声がりあがった。信徒会長の大歳栄一さんの大奮闘のおかげで、2月17日には各界の方々による発起人会を開くまでに至った。

完成の暁には、教会関係者のみならず、水沢を訪れる観光客の方々にも、この後藤寿庵の資料等の収集・整理・展示は大いに喜ばれ、

過去三回における「アジア体験学習」への参加は、私にとつて毎日が驚きであり、かつ新しい発見の連続であった。

「デイス・カウント」の掛声一つで半値以下の買物ができるマニラの市場。あつてなき

がごときのバス時刻表

(マニラ)。「電気・

水道・ガス」といった日本では当たり前設備が全く普及されていない部落での滞在。

機具と呼べる代物が何一つない、いわば頼れるものは自分達の力のみ、という条件下での土木作業や農作業。主日のミサが計八

体験学習Ⅱその四

韓

国



回というソウルの教会。しかもミサに与るためには、前のミサが終わる前から入口に列を作つて待たねばならないという現実。等々、過去の様々な体験が鮮明に、つい昨日のこのように思い返される。しかしここで気付かされるのは、いかに私が今まで偏つた価値判断にとらわれすぎていたか、というところである。これから、より広い視野に立つて物事を見つめ、とらえていくことが私にとつての課題であろう、と考える今日この頃である。

(小野寺 洋一)

役することは確かである。成功を祈ろう。

「祈りの集い」がつづく

― 築館教会 ―

聖ヨゼフを守護者に頂いている築館教会(梅津明生主任神父)では、昨今、修道院誘致とカトリック墓地の実現、そして召し出しのために熱い祈りが結集されている。

古くから聖ヨゼフに献げられる日とされる毎週水曜日には、教会の老若男女が、遠くから近くから集まり、聖ヨゼフに取りつぎを願っている。忍耐の鑑み、沈黙の聖人、聖なる公教会の守護者と謳われる聖ヨゼフが、必ずや私共の祈りを執り成して下さるでしょうと、信徒会長の鈴木与助さんは皆によびかけてい

る。小高い緑の丘の上にステキな十字架が：という日はまだ遠くにあるようだけれど、確実に近づいている音がする。

老人ホームで

「グッド・モーニング」



若さを保ち、喜びと感謝の中に老後を過ごすに頂く為に、といつて考え出された英会話教室。提案者は、当、花巻市湯口の特別養護老人ホーム大谷荘の院長・狩野賀代子先生。

協力者は、花巻教会のアウグスト・ゲーヴィレル神父様である。神父様は、同荘には開園直後から毎週慰問に訪れ、老人たちと親交をもつておられた。が、ご自身、英会話の先生になろうとは、ともあれ、「主の喜び」を伝えるために、月2回の英会話教室に神父様は情熱を注いでおられる。受講者はなんと六十人前後で、職員の方々を驚かせるほど意欲的。

訪れた家族らに、「グッド・アフタヌーン」と話しかけ、驚き・笑い・喜びのひとこまが主の平和を運んで来るといふ。感謝!!

モニカ佐藤たり様



仙台司教区長・佐藤千敬司教様の御母堂・モニカ佐藤たり様は、昭和60年1月12日午後11時50分暁星園にて、佐藤司教様に見守られて安らかに天寿を完うされた。享年89歳。葬儀ミサは、1月17日午後1時から元寺小路教会にて佐藤司教主司式、小林司教他約40名の司祭の共同司式で献げられた。聖堂は約300名の参会者の祈りで埋められた。



ブラジルを訪ねて(2)

東仙台 長井 和子

サンパウロから東南へ800km、美しい静かな街マリンガ。その街はずれに、イグレジア・サンフランシスコ・ザビエルがあります。

主任司祭は、貧しい人のため、貧しい人と共に貧しい人のように、実際貧しく生きておられる田中亮神父様。夜8時、20km離れたピラにミサに参りました。フアベラの人たちは月に1度のミサに皆美しく装って集まってきました。それは、立派な服でも、着飾って来るのではなく、昼間洗濯をしたサッパリとした装いです。私は特にこのフアベラの婦人たちに会いたかったです。忘れることの出来ない出会いがあったからです。以前この人たちは、こう話してくれました。

「あなた方から見れば、私たちは、いやしい売春婦でしかないけれど、これしか出来ない女の苦しみと悲しみを十字架のイエズスだけが受け止めて下さる。私たちはあの方のあわれみによって慰められ生きていける」と。

私は胸のしめつけられる痛みのなかで、この婦人たちのうちに主の臨在を感じました。この人たちの痛みをどのように自分の痛みとして受けとめ、分かち合えるのかと問い続けた四年間でした。

神父様から、クリスマス夜の出来事を聞きました。一晩告解を聞いて朝聖堂に入った神父様は、うまやの前で、祈り続けた婦人たちの輝く姿を見たそうです。体を売らなければ

生きられない女たちが、イエズス様誕生の聖い夜は、自分たちの、あわれさ、弱さ、悲しみのすべてを、その前に置いて、一夜だけは聖い体でありたいと祈る婦人たちです。神父様もこの人たちをその世界から引き出すことの出来ない無能と、弱さをうまやの前において、主のあわれみを祈り求めたそうです。

きびしいブラジルのインフレのなかで婦人たちは疲れ果てていましたが、再び訪れた私をいつばいの愛と喜びをもって迎えてくれました。ミサの中では体全体で主のあわれみをこい求め、感謝を捧げ、ゆるしと愛に結ばれた共同体がそこにありました。字を読むことの出来ない人たちは、私の下手なポルトガル語の書簡の朗読に、「グレース・ア・デウス」とこたえ、自分たちにかわって奉仕した私に大きな拍手をおくってくれます。

体にはノミやシラミをまともつけていても、貧しくやさしい人々に囲まれ、粗末なカディラに並んで腰かけ共に祈る私の心は喜びにみたされ、幾筋もの涙がほほを伝うのでした。

第三回召命練成会

- ・テーマ 私之道 ・定員15人
- ・日時 3月25日夜〜28日昼
- ・場所 光ヶ丘研修所
- ・対象 高校生男女
- ・指導 Srモニック(オタワ愛徳修道女会)
- ・申し込み 司教区事務所
- ・主催 神学生養成委員会
- ・責任 板垣 勤神父
- ・申し込締切 3月10日・費用6千円



寒と暖 人間もなんと単純な動物だのと、あらためて感心するところがある。きびしい寒さの中では、頭も心も、なんとなくギクシャクして、簡単に済む話が、なかなかOKが出せない、もらえない。それがあつたかか部屋では皆がゆつたりして、なんとなくおろろろ人間になつてゐる。難しい商談がいつも会食の席でなされるといふのも、このあたりを狙つたものか？

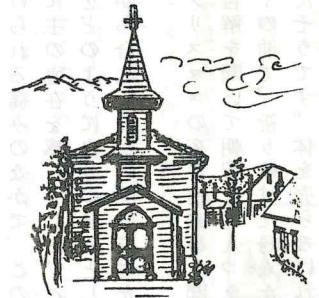
ところで、物理的な暖かさがこういうものならば、精神的な温かさがどれほど人間を変えるかは言を待たない。インソップ物語の『北風と太陽』は、このへんをも示唆してはいないだろうか。地球を救うのは、戦力でも、お金でもなく、また、正義を掲げての交渉でもなく、一人ひとりの開かれた心、兄弟姉妹を思いやるあたたかさであると思う。

なぜならば、ジブランが『預言者』の中で語っているように、この地球上に殺さねばならぬ「悪」はなく、ましてや敵はいないのだから。(与世夫)



おらが教会  
(50)

宮城・大河原教会



国鉄東北本線の大河原駅を降りて正面の大通りを20メートルほど進むと、町を縦に割って流れる白石川の長堤に出る。春ともなれば名物の一目千本桜が絢爛と咲き誇り、はるか前方に目をあげると残雪の蔵王が浮かれすぎた心に清々しさを呼び戻してくれる。この白石川を渡り、100メートル程して大通りを左折、200メートルほど進んだところにおらが教会の鐘楼が佇んでいる。かつてある外人宣教師をして、「楽園とはここであつたのかも知れない」と言わしめた程、天災地災の少ない自然に恵まれた半農半商の町である。県の出先機関があることで、地域住民は県南部の中心地を自負しているようであるが、古きよきものを大切にする美徳が旺盛である半面、そこに甘んじて漫然としている部分も無きにしもあらずである。

昭和55年、当教会は100周年の恵みに満たされ、記念行事が盛大にとり行われたが、それに付随して、「神とともに」というすばらしい記念誌も発刊された。それによると、明治13

年、大河原在住の一女性が元寺小路教会で受洗したことが神の招きの始まりである。15年から大河原はその巡回地となり、同31年伝道士が赴任することにより、その借家を仮聖堂として宣教活動は活発化していったが、特に部落あげての集団洗礼は遠く教皇庁にまで達し、このため明治40年、まず金ヶ瀬に天主公教会が開設された。大河原教会が現在の姿で現在地に建設されたのは大正4年の事であるが、このとき県知事に提出された建築様式が木造瓦葺ロマンチックとあるのが面白い。この建物は山形県の重要文化財に指定された鶴岡カトリック天主堂をモデルにしたとのことであるが、この様式は気仙沼やかつての角五郎丁教会と同系である。因に設立者名義の函館司教アレキサンドル・ペリオス(当時は仙台も函館教区内)は彼の有名な音楽家ペルリオズのとこにあたる。

元寺小路から大河原まで約40キロ。スーツを身にまとい、聖具の入った重いトランクを携帯して徒歩で通われた宣教師達の御苦労。更に蔵王へ川崎へ山越えして運びこまれるキリストの教え。ヤソよ毛唐よと迫害される中で、それを助ける伝道士や信徒達。エピソードも多い。時かれた種子は着実に根を張り、当教会出身の聖職者は11名にものぼる。巡回地であつたものうち、七日原・金ヶ瀬・永野の各教会はなくなつたが、白石・角田は独立教会となつている。

終戦後の活発な青年会活動や、昭和34年頃の意気盛んな学生会活動を思うと、相続く若

者の都市部流出傾向の中で、すぐにその再現を期待することはなかなか困難な現実にあるが、当時キリストの恵みを得た人々がシルバードワーを發揮して、おらが教会を支えて下さっている点心強い。活動の母体は信徒会であるが、中でも、嫁姑こそつて参加の婦人会の活躍は目ざましい。土曜学校も献身的な方々の奉仕によつて意気が上がつてきているだけに、特に子を持つ親として一層の意識高揚を自覚させられる昨今である。主日のミサは35名前後。先唱者をはじめ、旧約書の朗読は男子、使徒書は女子が、年間を通し全員で臨めるよう輪番制で行っている。第三日曜のミサ後は話し合いの日。これが当教会の、隣人を知り隣人を愛し、教会と共同体をみつめ合う大きな場となつているが、時には若い連中が集まり、神父様をひきずりこんで杯をくみかわす中から生れてくるアイデアも、その後の具体的活動に大きな力を占めている。

あたたかく慈愛に満ちた豊田神父様のもと、ふつふつと活気がみなぎりはじめたおらが教会。100年の恵みに感謝しながら、101年を元年と考え、あらためて神の声に耳を傾けたい。その努力はエテルニターテ!! (細淵誠一)

【編集後記】牛年でノンビリとはいえず、教区報発行が遅れに遅れ、今に至つてしまいました。かつての「炬火」のように写真を入れて「見る」教区報にしてはどうかという話も耳にする。うれしいことである。それにしてもスタッフ不足。「教区報をより良くしたい」と意欲のある方の手伝いを求む。お手当ては天国にて。(首)